

## かな山開発反对陳情書

乍恐奉差上口上書

一銅山壱ヶ所 字くきの谷

榎原村領

右之銅山開掘仕候義ハ、紀州入鹿村ニ始而銅山出来仕候ニ付、其節大坂福山次郎右衛門と申町人之下代助九郎と申者、かな山見立ニ方々廻り、榎原村之銅山ヲ見立、御公儀様より申落し候由申ニ付、かな山出来仕候へハ、所之難義ニ成申候由及承候故、御公儀様へ御詫言可申上と申候へハ、百姓之為宜敷様ニ可仕と色々之品ヲ申ニ付、真と存候而其分ニ而差置申候、依之四十三年以前ニ兩年之間堀<sup>(掘)</sup>申候、然八百姓之為ニ成申義ハ無御座、段々迷惑成義共数多御座候、

一鋼之煙ニ而立毛実入不申候、

一栃之実・榎之実ヲ百姓之飯米ニ専仕候処ニ、栃・榎之木を伐、大分炭ニ焼申候故、百姓之飯米乏敷相成、ひしと迷惑仕候、

一葛・蕨も右同前ニ少ク罷成候、

一銅之煙ニ而柿・栗・栢等之実大分落申候、

一かな山仕候間八鮎一円無御座候、

一茶摘申時分日用無御座候、

右之通悪敷事八数多御座候へ共、能事ハ無御座候、其上あぶれ者共入込申ニ付、娘子共又<sup>(供)</sup>八人之妻ヲたぶらし、或ハ他国へ盗行、程々之禍出来仕、喧嘩度々ニおよひ騒動仕、其上諸人之ざわめきニ而山かせき之家業疎略ニ罷成、段々迷惑仕候ニ付、かな山を止申候様ニと色々申候へ共、中々聞入不申、還<sup>(却)</sup>而狼藉ヲ申故、十津川千石之場惣談合之上、小野喜左衛門様へ百姓迷惑之段々御断申上候へハ、御手下下市村堀内市右衛門殿御越被成御払被成候、それよ

り山留り、其後八堀<sup>(掘)</sup>申者無御座候、

一元禄四年未之八月、御代官竹村八郎兵衛様かな山御見分ニ御越被成候に付、

先年かな山出来候時分、百姓迷惑仕候段申上候、

右之通相違不申上候、今以もかな山之義御詫言申上度奉願候、以上

宝永弍年酉六月十四日

十津川惣中惣代湯ノ原村庄屋

源之丞<sup>印</sup>

辻弥五左衛門様

同断 武蔵村庄屋

伊右衛門

同断 檜原村庄屋

作右衛門